



心ゆたかに 力たくましく—— 1973.12 No.1

# あすなろ国体

AOMORI 52



第32回国民体育大会青森準備委員会



# 県民みんなで成功させよう！青森国体

あすなろ



青森県知事

竹内 俊吉

県民のみなさん、昭和五十二年の第三十二回国民体育大会は、青森県で開催されること、去る七月十日に正式に内定いたしました。

顧みますれば、昭和三十六年十二月県体育協会で昭和四十二年の第二十二回国体誘致を決議し県議会に提出、翌昭和三十七年三月の県議会において決議すると同時に、誘致委員会を結成

して誘致運動にのりだしてから、実に十年を越す長い道程でした。その間、おとなりの岩手県優先問題、栃木県との競合など幾多の困難な事態に遭遇しましたが、それらの苦境にもめげず根気よくこれを切りひらき、今日の明るいニュースを手中におさめることができました。

ルの開通を目前にするなど青森県にとりましては、まさに躍進へのスタートを切る輝かしい年にあたること予想されます。この意義ある年に全国でも初めての冬季、夏季、秋季の全競技を同一県で行う、いわゆる完全国体を行いますことは、テーマ「あすなろ国体」に象徴されるように、躍進する青森県の姿を全国民に印象づけることのできる、またとない機会であるといえましょう。

この朗報を県民のみなさんと一緒に心から喜びをわかちあうとともに、関係各位のこれまでのご尽力、ご支援に対しまして厚くお礼申し上げます。

したがって、五十二年国体は単なるスポーツの祭典に終わらせることなく、これを契機によりよい県民性の伸張と、明るく豊かな郷土の発展を期することに意義があるものと考えておりますので、県民のみなさんのご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

国体が開催されます昭和五十二年は、東北縦貫自動車道の開通でありますとか、青函トンネ

から「昭和五十二年の第三十二回国民体育大会冬、夏、秋季大会を青森県で開催することを内定する」という国体内定通知書が竹内知事に手交され、昭和五十二年青森国体実現へ大きく一歩を踏みだしたのであります。



あすなろ

# 青森国体が決まるまで

体に名乗りをあげたのは、昭和三十六年の十二月、足かけ十二年の長い道のりでした。

最初、第二十二回大会へ立候補したが実らず埼玉県に決定、岩手県が第二十五回大会を開催この間、二十八、二十九回大会への立候補も、東北、関東の東地域ブロック調整で、千葉県、茨城県と決まり、東北では本県だけが秋季大会未開催地として取り残されました。

第三十二回大会、昭和五十二年開催に始動したのは、昭和四十五年十月の岩手国体直後、第三十二回大会開催は、東地域では栃木県が立候補して激烈な誘致合戦が始まった。結局東地域ブロック調整会議まで持ち越されたが、最後には関東ブロックが第二十八、二十九回大会を千葉県、茨城県で開催するにあたって次期東地域での開催は、申し

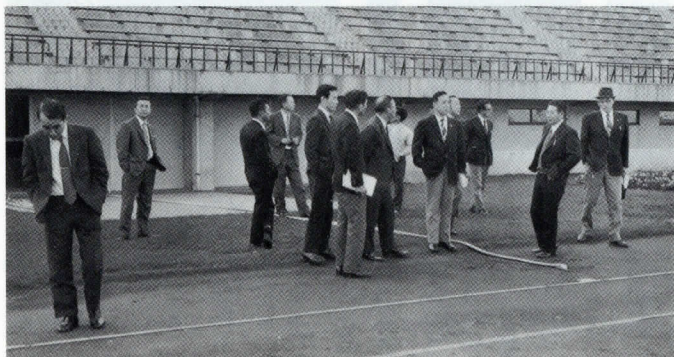


●国体内定通知書の交付

今回の国体内定により、国体を本県で開催したいという長年の願望が、事実上かなえられたとみてよいでしょう。国体内定までの経過をふりかえってみますと、本県が秋季国



●パレードも運動の盛り上げに一役

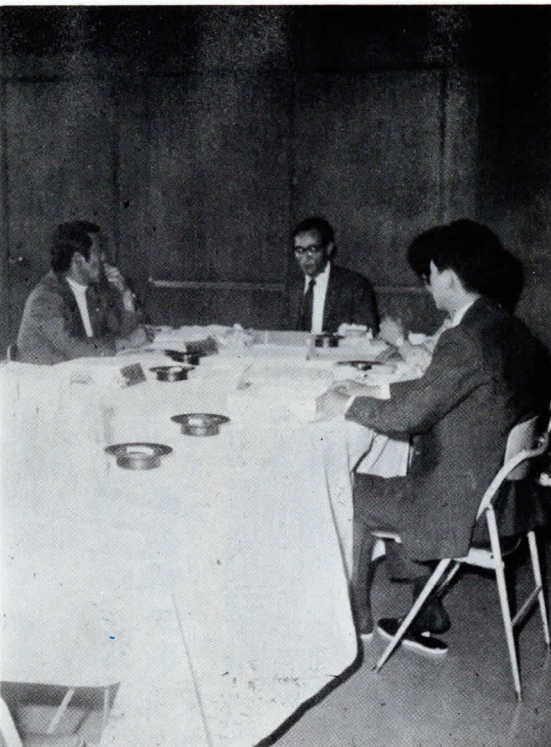


●競技施設を視察する体協メンバー



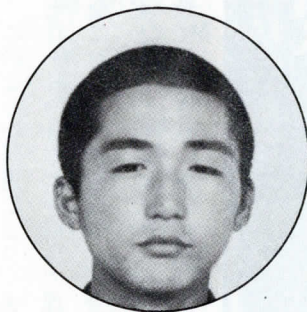
# テーマ・スローガン決まる

●テーマ「あすなる国体」  
●スローガン「心ゆたかに力たくましく」



にむつ市在住の岩村俊雄さんが

●6人の審査委員による慎重な審査



●スローガン・川村好孝さん

応募された「あすなる国体」、スローガンに西津軽郡森田中学校三年生・川村好孝さんの「心ゆたかに、力たくましく」が選ばれ、審査委員長から青森県準備委員会会長に答申した結果、答申どおり決定され、七月十日に発表されました。

然純林を豊かに保って、青森県の風土を形づくる。

「あすこそヒノキになろう」ひたすら、あすを目標として成長に努める—という伝説の木。その未来志向の姿こそ、国体開催を契機に飛躍を旨とする若き青森県の象徴といふべきであろう。また四季うつろわぬ常緑は郷土の豊かな自然の源をなすとともに、史上初の冬、夏、秋「完全国体」のシンボルとするにふさわしい。「永遠の若さ」と「たゆまぬ前進」国体を迎える青森県民は、その夢と希望を「あすなる」に託して、高く掲げる。

## スローガン

「心ゆたかに、力たくましく」力の限りを競うスポーツマンの姿は、内に心の輝きを秘めて、さらに美しい。ゆたかな心は、あふれる力の源泉—心身の調和ある成長を目指す全国の若人に栄光あれ。

## テーマ

「あすなる国体」あすなる—ヒノキ科アスナロ属の常緑高木、わが郷土、青森ではヒバと呼び、県の木とする。木曾のヒノキ、秋田の杉と並び日本三大美林と称される自



●テーマ・岩村俊雄さん

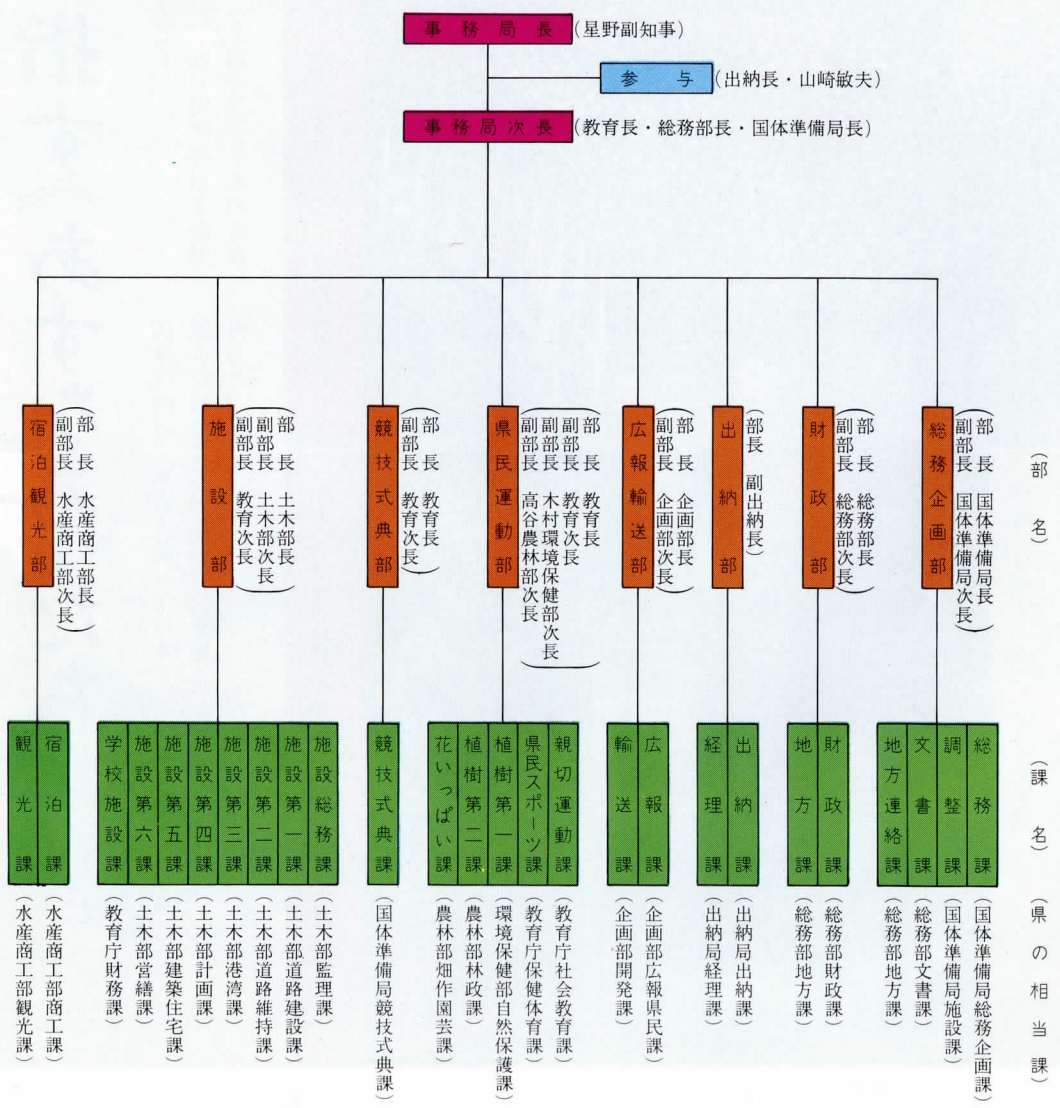
「あすなる国体」



# 着々進む国体準備

去る四月から総務企画課、施設課、競技式典課の三課六班三十余名のスタッフで組織されている国体準備局が発足して国体準備業務を専門に担当することになりましたが、これと併行して、昨年九月に発足した第三十二回国民体育大会青森県準備委員会事務局を庁内関係部課で構成している機構も、昭和四十八年度から八部二十六課に拡充しております。また、開催年次にあたる五十二年には、十八部六十課位になる予定でありますので県の各部課の殆んどが何んらかの形で事務局に入っていくことになるものと考えております。なお、県国体準備委員会事務局の機構については図のとおりです。

## 第32回国民体育大会青森県準備委員会事務局機構図(昭和48年4月1日)



(あすなる)



# 52年を目指す《あすなる》たち

若潮国体と名づけられた第28回国体秋季大会は、10月14日から10月19日まで、千葉県におい

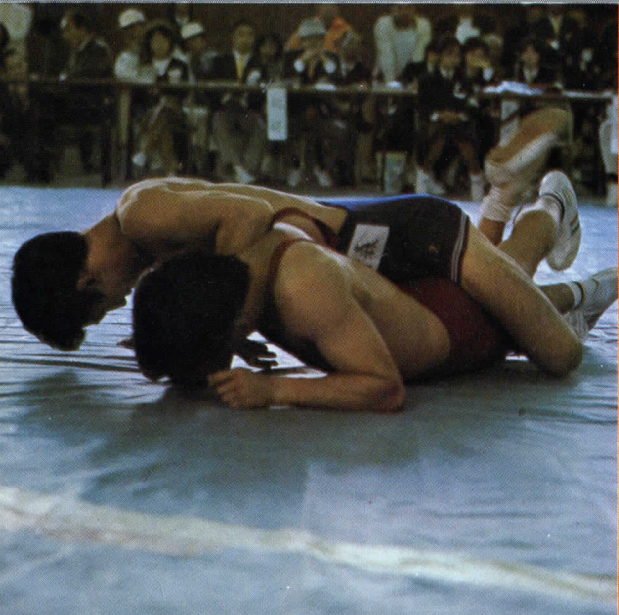
て開催された。本県は、長谷川団長以下総勢311人を送り、4年後の青森

国体へ向けて熱戦を繰り広げた。総合成績では、天皇杯11位を獲得した。

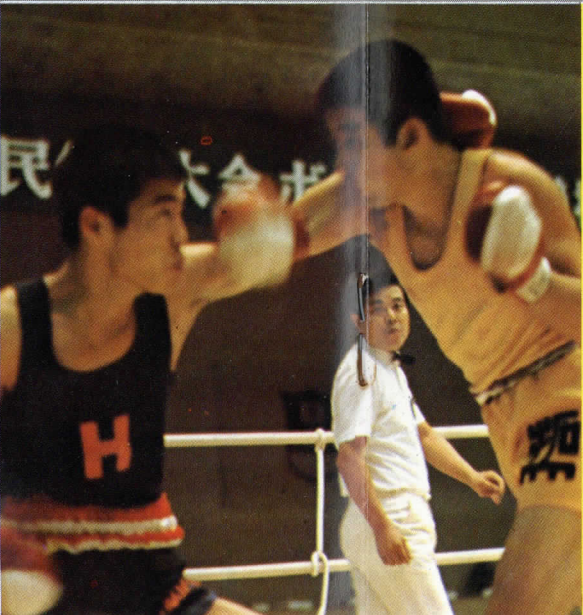
千葉市で行われた秋季国体開会式



小笠原旗手(自転車・一般)を先頭に入場行進する本県選手団



《無念》レスリング総合優勝を逃し、4位に終る(高校)



《無敵のボクシング》、7年連続優勝(一般)



「高校女子円盤投げ決勝」力つよい投てきを見せ、5位入賞をはたした安田選手(木造)



高校相撲団体優勝決定戦、強敵高知に敗れ惜しくも5位に終る



# 「随想」……地域協調のために尽したい



田名部 匡省  
(青森県体育協合理事長)

## ●選手への言葉

スポーツは参加することが目的で、勝つことが目標であり、目的と目標は別だと思いが、従来の国体選手を見てみると、県代表になるまでは一生懸命だが、なってしまうと安心して、あとは参加して楽しんでくるという傾向がある。やる以上は目標にむかって全力を尽くすのが大切なので、やるだけやったという満足感がスポーツの本当の楽しさだと、僕は思っている。

## ●県民総ぐるみの国体を……

今までの国体開会式が一番感激したのは沖縄国体だ。観衆の熱狂的な歓迎ぶりといったら……。今度の青森国体でも、大勢の若人が青森にやってくる。彼等がいい青森を持ち帰ってほしい。そして全国に伝えてほしい。そのためには、選手は全力を尽くし、まわりの人は若人達を暖かく迎えてあげることだ。とにかく、全力を尽くして良いものを残すことが大切だと思う。

## ●恨みの一分25秒

僕の国体の思い出は、高二の時(昭・二十七)北海道とのアイスホッケー決勝だ。相手は十七人が交替で出場、こっちは六人が氷に出たつきりで一時間、接戦の末、最後の一分二十五秒でシュートされ、負けてしまった。今思うと一時間よく走ったものだ。そのくやしきは今でも強く残っている。あの一分二十五秒は恨みだったなあ!



丹内 正一  
(青森県高体連会長)

五十二年本県での国体は、史上初の完全国体である。これを名の如くに成功させなければならぬ。青森国体はやってよかったと県民に喜ばれるような国体にしなくてはならない。

喜ばれるかどうかは、結果をみなければわからないが、そのひとつとして私は、中、高校生の競技力の向上を考えたい。「あすなる国体」の名にふさわしく、発展途上にある本県の未来を背負って立つ青少年の活躍に大いに期待したい。天皇杯を得ることが国体の目的ではないが、こ



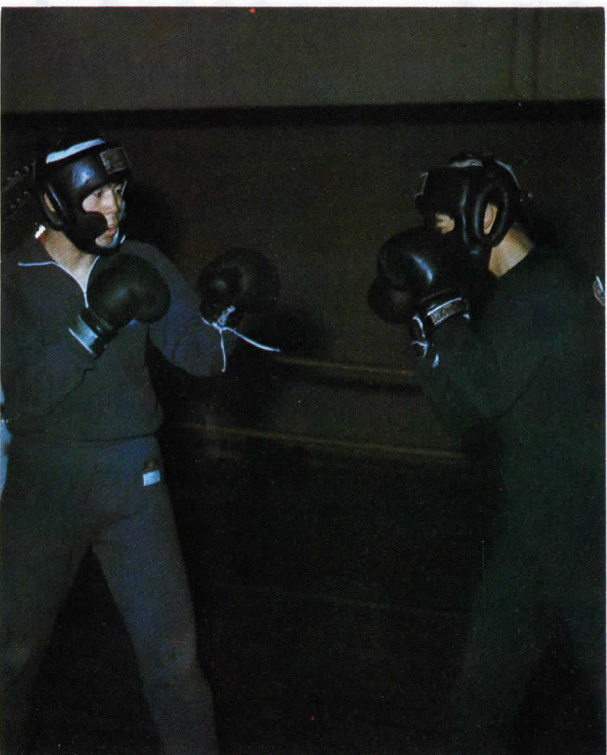
# 「あすなる」の心を日本中にひろげよう



長内 俊博  
(競技式典課長補佐)

最近、早朝に道路を走っている人をよく見かける。走るというよりも、少し速く歩くと云ったような中年層の人が多く、なかには中学二、三年生ぐらいの子どもと一緒に走っている若い父親もいる。冬に向って寒さも増しているいまの季節に、このような光景をみることは結構楽しいし、すがすがしい気持ちになるものである。自分もやってみようかななどと云う殊勝な気になるから不思議である。

国の調査によると、我が国のスポーツ人口は八六四万人であり、このうち海水浴人口を引くと三二四万人しかないと云う、大部分は「見るスポーツ」の側に立っている現状のようである。これでは、健康の維持もやっとならなくて、積極的に身体機能を高め、心身ともに快適な毎日を送



●トレーニングにはげむボクシング選手

我々の代表が、五十二年にどんな活躍をみせるかも本県のスポーツ発展にとって大事な条件である。県体協の選手強化本部では、みんなの協力を得て、本県選手が地道に練習してきた競技力を、これから十分生かせるよう工夫して、大会のときに満足のゆく試合をしたと思うよう努力していきたいとしている。勝敗は時の運と云うものの、地元についての試合で、ふがいない態度と拙劣な力をもって望むのは、いろんな意味においてよい結果はでてこない。手段を選ばずどんな犠牲を払ってでも云うことは毛頭考えないし、ありうべき姿である。純粋に本県の選手のみを編成で、計画的に練習を積重ね、気を高め、技を錬り、力を合わせ、堂々と競技をしてこそ開催地元の選手と云えるのではないか。結果は待つのみである。先般、青森市において、青森県学校スポーツ研究発表大会があった。県下の中、高校生のなかから七名ほど、日頃のスポーツ実践を発表したが、実に立派なものである。スポーツは自らに打ち勝つもの、学業とスポーツは両立する、など。これら中、高校生は本県の未来をみてくれる。テーマ「あすなる国体」のとおり、目標に向ってたゆまず進む気概を中高生はもって育てる責任も大きい。

るなどとは思ってもよらない。競技スポーツとまでいなくても、気楽に運動ができたらどんなに楽しいか、やってみようという気持ちでいい。若し、手軽に運動ができて気分転換をはかれるなら、なにか、生活に違ったリズムをもたらしてくれはしないか。そんな時間もほしいし、やる場所もほしいし、仲間もほしい。こう思っている人が案外多いような気がする。

五十二年には、あすなる国体が開かれる。この意義は大きい。県民のスポーツへの関心を高め、

社会体育施設としての公営体育館や運動公園やスポーツ施設が充実して、いままで遠慮?していた一般人のスポーツ実行がより活発になるような気がする。家庭体育と云う言葉があるなら、家族そろってのスポーツが、これからのスポーツ観を変え、スポーツ人口を増やし、より普遍的なものにするのではなからうか。本県における社会体育施設は過去にくらべ本場に飛躍的に変化する。この機を逃がすこと



# あすなろ 青森国体を迎えるにあたって...

五十二年をめざして、あすなろ国体の準備はいま着々と歩を進めています。あと三年という年月はみなさんにはまだ先のことかもしませんが、国体を迎える

青森県内の街々で、県民のみなさんの生の声をインタビューしてみました。あすなろ国体をぜひ成功させるために、みなさんも一緒に考えてみてください。

## ミニミニインタビュー



浪岡町・鳴井順子(21才) 銀行員

- ① 緑を多くしたい
- ② わからない
- ③ テレビ、陸上競技
- ④ できれば優勝してほしい(ガンバツテください)
- ⑤ レコード鑑賞が好きな女性です(民謡はだめです)



青森・根岸裕治(36才) ガソリンスタンド勤務

- ① 青森県の人情を知ってもらいたい
- ② 昭和52年
- ③ 日本の国の祭典
- ④ 県民の代表として恥じないようがんばってください。最後まで正々堂々と!
- ⑤ 酒が強くて、酒席の余興が自慢です



青森・佐藤隆俊(23才) 警察官

- ① 道路の整備(交通事故防止)
- ② 52年
- ③ 若い力のテーマソング
- ④ 他県に負けられないようにしっかりとやってほしい
- ⑤ 大学時代を東京で過ごして、ふるさとの良さ(津軽弁、ねぶた、八甲田の雪...)を再認識した。ふるさと津軽を愛する男



常盤村・高木テツ子(25才) 主婦

- ① リンゴを宣伝したい。観光面を特に!
- ② 52年
- ③ 入場行進
- ④ できたら優勝して!
- ⑤ 手芸が得意です



弘前・野田彰(18才) 高校3年生

- ① 青森県の自然の美しさと津軽美人を見て!
- ② 52年
- ③ 体操競技
- ④ けっぱれ!
- ⑤ 体操、バドミントンが得意



弘前・工藤弘二(53才) 会社員

- ① 総合的な歴史、観光、人情をPRすべきだ
- ② 52年
- ③ スポーツ、団体競技
- ④ けっぱれ(優勝を狙ってほしい)
- ⑤ 剣道ならおてのもの!



八戸・坂本弘子(22才) 地方公務員

- ① 素朴さ、十和田湖、下北の自然、ねぶた!
- ② 52年1月?
- ③ 開会式
- ④ 卓球の選手にぜひ優勝してほしい
- ⑤ 行動的です



八戸・高橋路子(16才) 高校1年生

- ① 青森を通じていろいろなこと(田舎の良さ、人の心など)を理解してほしい。緑に親しんでもらいたい(どっぶりつかってみて)
- ② 知らない
- ③ 若さ
- ④ 悔いのないように!
- ⑤ 丈夫で長持ちする乙女



八戸・中道敏夫(26才) 家事手伝い

- ① ちょっとわからない
- ② わからないなあ
- ③ トラック(競技場の)
- ④ がんばれよ!
- ⑤ 別がない

県民の強い願いと関係者の長い苦労が実り、やっと実現するあすなろ国体。スポーツを通して全国の若人が一堂に集い、技を競い、熱い心を交わし合う国民の祭典、その舞台に私達の青森が選ばれたのです。青空や山や湖...この美しい自然を日本人の人々に見てもらおうのです。北国の暖かい人情を、素朴な

しを伝えるのです。あすなろ国体は郷土の素晴らしさを広めると共に、県民の団結を固め、更に青森の大きな発展を導く道標です。選手達も日夜たゆまぬ練習に励んでいます。私達県民はいまこそ一人一人の力を合わせて、きたるべき五十二年の大きな結実をみごとに果たそうではありませんか!

